

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

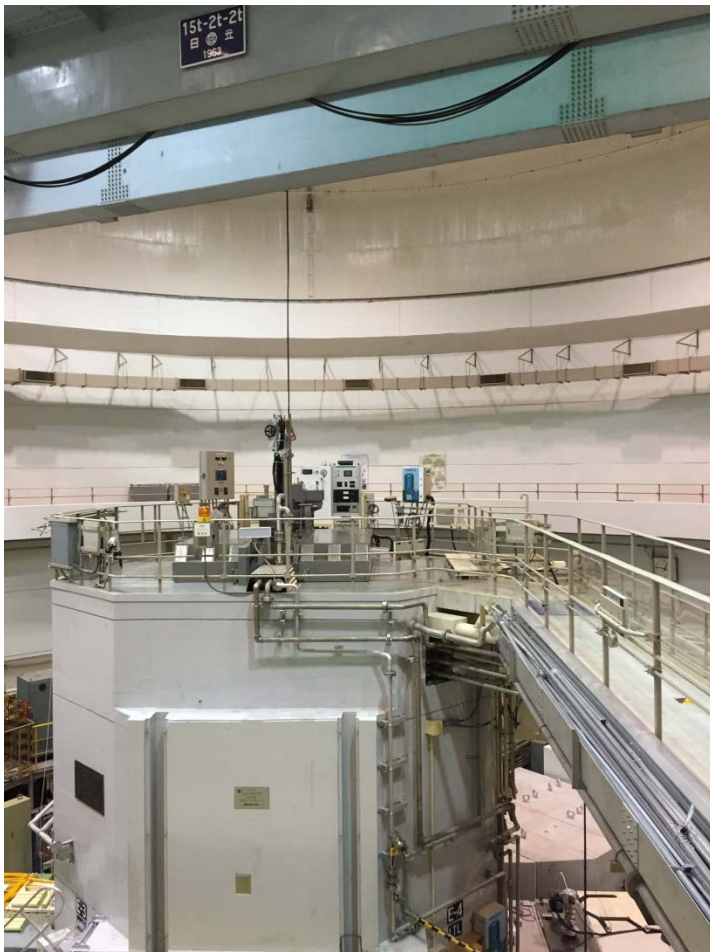
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 5 月 18 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	田島夏子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
京都府・大阪府・和歌山県・愛知県
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
生物科学専攻インターラボ
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 4 月 6 日・平成 26 年 4 月 8 日～11 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学原子炉実験所、京都大学瀬戸臨海実験所、京都大学白浜水族館、京都市動物園、京都大学生態学研究センター、京都大学霊長類研究所、日本モンキーセンター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
渡航内容 インターラボ実習では、4月6日、4月8日～11日の5日間、京都大学生物科学専攻の新入生が、京都大学の研究施設と関係機関を訪問し、生物科学の様々な分野の施設の見学及びそこで研究を行っている研究者や先輩方からお話を伺い、広範囲に及ぶ京都大学の生物科学専攻の研究の概要を学んだ。 日程は下記の通りである。 4/6 ウェルカムレクチャー 4/8 原子炉実験所、瀬戸臨海実験所見学(宿泊) 4/9 瀬戸臨海実験所、白浜水族館 見学 4/10 京都市動物園、生態学研究センター見学 4/11 霊長類研究所、日本モンキーセンター見学 下記に各日程での実習の概略を述べる。 4/6 ウェルカムレクチャー 京大北部キャンパスで各分野のポスドクの方など若手の研究者の方々のお話を伺った。それぞれの方が自らの研究テーマを分かりやすく発表してくださり、内容もちろんだが、いかにわかりやすく聞き手に印象付ける発表を行うかというプレゼンテーション方法がとても勉強になった。新入生対象の発表だったので、先輩方の自らの修士課程時代のお話や、現在の研究テーマに至るまでの苦労などもお聞きすることができ、皆同じ道を通っているのだと安心し、これから頑張ろうと気合を入れ直すことができた。 4/8 原子炉実験所、瀬戸臨海実験所見学 4/8-9 は一泊二日で大阪の原子炉実験所と、和歌山の瀬戸臨海実験所を訪問した。原子炉実験所では原子炉のしくみの簡単な説明を受けた後、実際に原子炉を見学した。建屋内の厳重な防御扉の内側に3階建て程の高さの原子炉があり、現在は稼働していなかったが、上部に登り、窓から燃料棒を見ることができた。また、BNCT 治療のための治療設備を見学させていただき、昔はその場で開頭手術なども行っていたことや、患者さんの様子などを、実際にそこで治療・開発に関わっていた方々からお話を伺うことができ、非常に良い経験となった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



建屋内の原子炉



原子炉内の燃料棒

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



建屋内で手術を行っていた時の名残の照明

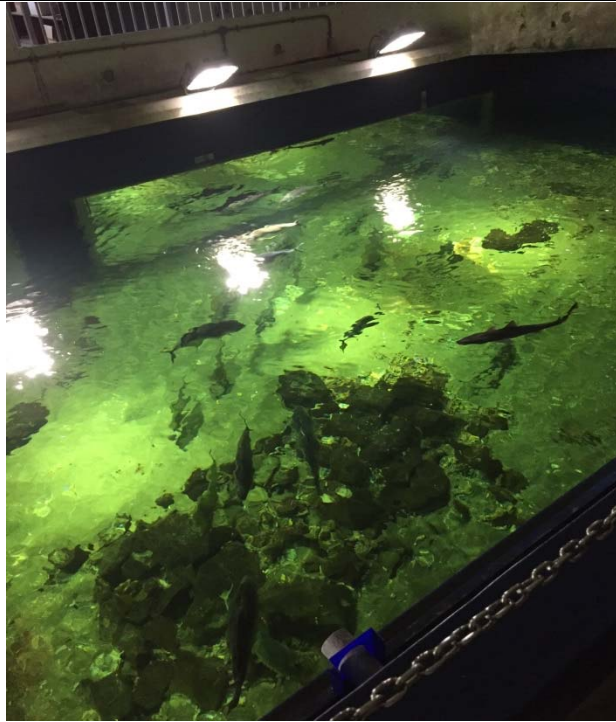
原子炉見学後、瀬戸臨海実験所に移動し、夕食後宴会を行った。同じ生物科学専攻の学生と言ってもほとんど接点がないので、このような機会での交流を持てたことは非常に有意義であった。皆様々な研究テーマを持っていて、知識も豊富であり、とても刺激を受けた。今後も同期として交流を深めていきたいと思う。

4/9 瀬戸臨海実験所、白浜水族館

9日は、臨海実験所の先生方のフジツボやウミグモ、ヨコエビなどの分類の仕方や生態についてなどの研究についてのお話をお聞きした。動物園や水族館にいる知名度の高い動物とは違い、調べるたびに新種が出てくるような生物を地道に観察し、その道を究めることの楽しさを知ることができた。また、その後は施設内や白浜水族館の裏側を見学させていただきことができ、水槽維持の方法やこれまで飼育していた個体の標本などを見ることができた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



白浜水族館にて、水槽を上部から見たところ

4/10 京都市動物園、生態学研究センター

10日は、京都市動物園で各展示動物の説明を受けながら見学した。何回か訪れたことがあったが、展示場のデザインや、動物の行動特性や個体の性格などの説明を聞くとさらに理解が深まった。あいにくの雨で野外の動物はじっくり観察できなかったので、また個人的に訪れて観察しようと思う。ゴリラの飼育場において、一般の方も観察できる仕組みや、チンパンジーのベットづくりのための工夫等が印象に残った。また、歴代の飼育動物のはく製や骨格標本なども見学させていただいた。実際に持ってみた際のカバの頭骨とキリンの頭骨の重量の違いにとっても驚いた。京都市動物園の見学後は滋賀県の生態系研究センターを訪問した。インターラボ前まではセンターについて何も知らなかったが、研究者の方々のお話がとても面白かった。共生生物であるキノコを植え、守り、食べるハキリアリは農耕を行う昆虫であるというお話が興味深かった。また、個人的に気になっていた胃内容物の安定同位体測定の測定器を見学し、方法を学べたのがよかった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



雨宿りするゴリラの母子



遊んでいるアジアゾウの子

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



オスのカバの骨格標本



キリンの頭骨の内部

4/11 霊長類研究所、日本モンキーセンター

最終日は、愛知県犬山にある霊長類研究所を訪問した。研究棟が大きく、チンパンジーの飼育場に直結している設計に驚いた。研究室を出ればすぐに対象種を観察できる環境が素晴らしいと感じた。以前チンパンジーが脱走した時、事務室で電話を掛ける真似をしていたというお話が面白かった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



屋外放飼場の様子

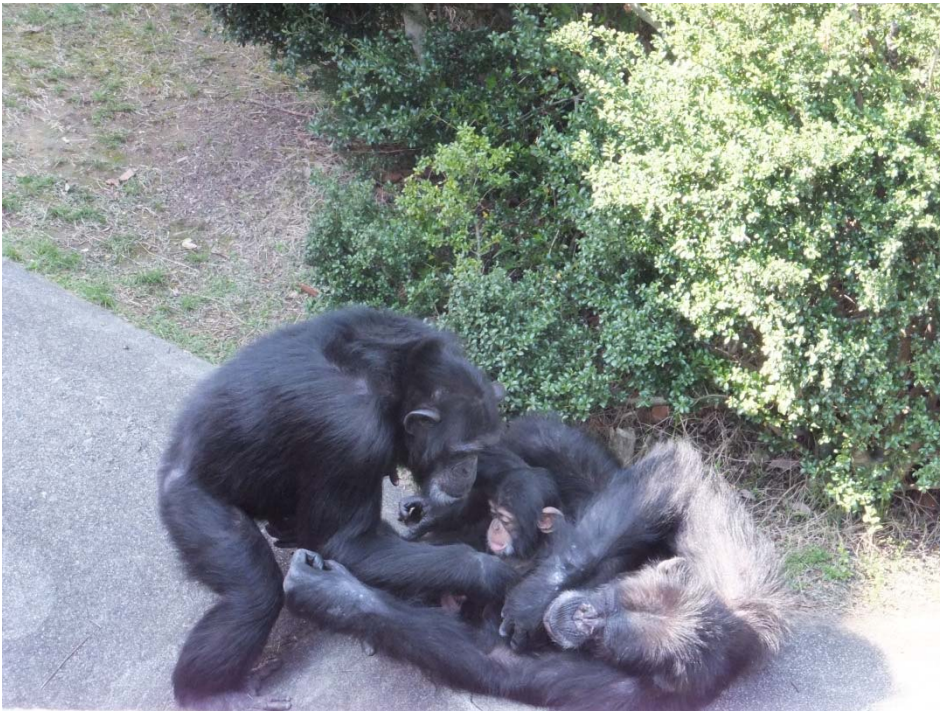
午後は、日本モンキーセンターの見学を行った。最初に見せていただいた飼育個体の骨格標本の保存庫や、ホルマリン漬けの部屋が圧巻であった。また、動物園の見学では、世界のサル類が一堂に集められていて、一般の方も楽しめる作りになっているが、研究者にとっても貴重な施設であると感じた。時間が短く見学しきれなかったもので、また訪れたいと思う。



歴代の飼育個体の骨格標本が入った箱

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



グルーミングをするチンパンジーの親子

6. その他 (特記事項など)

本実習で訪問させていただいた原子炉実験所、瀬戸臨海実験所、京都市動物園、生態学研究センター、霊長類研究所、日本モンキーセンターの皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。また、本実習は PWS プログラムの援助によって行われました。プログラム関係者の方々に深く感謝いたします。